

# えくてびあん

11

立川と語ろう 立川に生きよう

NOVEMBER 2000 1,900円(税込) V.4.19 No.196



表紙の人 / 寺内ハル (錦町) 撮影 / 細江英公



# 【銀杏】

## 【イチョウ】

学名：Ginkgo biloba  
イチョウ科イチョウ属。中国原産、日本へは平安末期から鎌倉時代初期に渡来したといわれている。

この季節、紅葉といえばカエデの仲間、黄葉といえはその代表は何といってもイチョウである。一科一属のこの貴重な植物は中生代、約二億三千万年から七千万年前に栄え「生きた化石」ともいわれている。種子はお馴染みのギンナン。栄養価の高い食材で好む人も多いが、多食や生食したりすると下痢を起こし、危険なこともあるという。古木になると「乳」と呼ばれる気根が下がり、これが乳房の形に似ていることから、その皮を煎じて飲むと乳の出が良くなるという

民間信仰が生まれた。神社などでは御神木として、しめ縄が飾られたものを見かけることがある。火災にあっても枯死することがなく、屋敷の周り、特に神社仏閣では各地で古木・名木を見ることができ

市内では昔から農業試験場のイチョウ並木、近年では国営昭和記念公園のイチョウ並木が有名だが、名木といえは砂川・流泉寺の大イチョウ、そして普濟寺の雌雄二本の大イチョウが挙げられるだろう。普濟寺のイチョウは目通り三メートル八十センチもあり、北側のものは「乳」が大小三十ヶ所も下がっている。都の指定旧跡である立川氏館跡の土塁の上にそびえ立ち、根の張り具合は見事なものであるが、永い間風雨に晒されて土が流れ、倒木の恐れもあるということ、最近、上部の幹や枝が切り落とされてしまった。かつての勇壮な姿は見られなくなってしまったが、貴重な文化財としてもこの名木が一日も早く枝葉の茂ることを願ってやまない。



所在地：普濟寺  
(柴崎町4丁目)

落葉して素顔をさらす大銀杏

岩城善作





# 一人出版、奮闘す。

## 美術の書出版「形文社」主宰 岩部定男さん

啓介 僕は以前、「二人書房」(成瀬露子著)という本を読んでね、一人で本を出版するなんて、世の中には凄いことをやってくれる人がいるもんだなあと思ってたんですが、ここにもいましたね(笑)。

岩部 いや、お恥ずかしい(笑)。実際は家内が経理をやってくれたり、娘が細かい仕事をしてくれたりと、家族が手伝ってはくれているんですが。

啓介 新案内のダイレクトメールをい

ただく度にも思っていますよ。こりや並大抵じゃできないだろうなって。目録を見てさらに愕然とするんですが、普通の出版社が手を出さないようなテーマを取り上げて、それを営々と続けておられる。

岩部 これしか能がないんですよ。まあ、やはり大出版社に対抗するには、彼らのおこぼれを拾うようにやっています(笑)。



■岩部定男(いわべさだお) 企画に始まり取材・編集・販売に至るまでをたった一人でやる岩部さんは、いわば「一人出版社」。武蔵野美術大学を卒業後、イラストレーターとして大手出版社の仕事に従事。後に編集業務に移り「石井鶴三全集」など美術史の編集に携わる。昭和82年、有限会社形文社を設立。「巡礼の道徳巻」「造形の視座から」など資料としても第一級の書籍を続々と刊行。今年7月発行の最新刊「英国ロマネスク建築巡礼」は構想から20年を要した力作で、現在、本国イギリスの専門家からの問合せも相次いでいるという。一審時在任、66歳。

■立井啓介(たていけいすけ) 本誌発行人。

啓介 この最新刊(「英国ロマネスク建築巡礼」)にしても、ロマネスク建築という紋り込んだテーマでしょう。他に類書が見当たらないだけに、欲しい人にとっては、この四千年という値段は安過ぎるんじゃないですか。

岩部 それはいつも云われるんですよ。口の悪い友人からも「お前が出す本は欲しい奴だつたら何万円でも買うぞ」って。でもイギリスのロマネスク建築については絶対本にしたいと、もう二十年近く思っていました。

啓介 ご自身の名前が「著者」として出るの、今回が初めてでは?

岩部 ええ、そうなんです。もともとこのテーマで書いてくれる人を探してたんなんですが、日本では一人も見つからない。じゃあ本国のイギリス人なら、と「ブリティッシュ・カウンスル」という、日本でいう文化庁のようなところに依頼して探してもらったんですが、詳しい人はついに見つからなかったんです。そうしたら担当の人が「お前、そこまで詳しいんだから自分で書け」って云われて(笑)。

啓介 もともと興味を持っていたきっかけというのは何だったんですか?

岩部 一九七二年ですか、まだ版販の仕事をやっていた頃に、印刷学会の招待でヨーロッパの印刷業界を視察する旅行に連れていかれました。私の場合はひねくねれものから(笑)、視察をさぼって美術館とか古い教会ばかり見てまわってたんです。そこで昔の教会の佇まいに触れたというか、質素でいいなあ。

啓介 ロマネスク建築って、南フランスあたりのものが良く知られてますよね。

岩部 もともとは七世紀頃のエジプトの方、砂漠の修道院建築からスタートしたようですね。それが南仏から入って北上

して、ヨーロッパに定着したのが十二、十三世紀頃ですか。そもそも貧しい人々のための教会、庶民の集会場として発展したのなんですね。

啓介 今で云う、街の公民館のようなものでしょうか。

岩部 きっとそうだったんでしょうね。特にイギリス北東部は、北へ行くほど貧しい質素な形になっていくんです。もともと土地も貧しいし作物も育たない。そういう地域で育った宗教ですから余計な装飾は一切なしという、ストイックな信仰姿勢の現れなんです。権威をもってはいけないうことで、キリストやマリアの「像」すらない。それが重要なところですね。

啓介 こういう建築物は歴史的に見てもとても貴重なものだと思うんですが、イギリス本国でも知る人が少ないというのは何故なんですか?

岩部 十四、十五世紀の宗教革命で建物が一気につぶされてるんですよ。ローマ・カソリックとケルト系のアイリッシュ・キリスト教との対立が生まれて、それが民族戦争に発展してしまっただけで現存しているものが少ないんです。

啓介 アイルランドの紛争などは今でも続いていますから、イギリス人にとってはある種、禁忌的な空気もあるのかも知れませんね。でも質素で小さいとはいえず、写真を拝見するとどの建物も風格がありますよね。

岩部 この本で一番云いたいののは「でかけりゃいいってもんではない」ってことなんです(笑)。

啓介 これ、どの写真も素晴らしいんですが、撮影も岩部さんがされたんですか。

岩部 いやいや、息子(啓介)なんです。啓介へえ、息子さんと取材されたんで

すか!

岩部 ええ。撮影とレンタカーの運転手もさせて。

啓介 お二人で、実際のどのくらいの距離を回られたんですか。

岩部 ええと、二千キロ弱ですか。そのうち七、八百キロは迷い道です。何しろ現地でも、建物の存在自体を知っている人がいないんですから(笑)。

啓介 いやあ、大変な労作ですね。お話を伺っていると感心するんですが、確かに岩部さんの作る本はテーマが限られていて、一般的に普及するものではないのかもしれないんですが、誰かがやらなきゃいけないもの、後世に残さなきゃいけないものを確実に作っているような気がするんです。

岩部 やっぱ大出版社への対抗意識でしようねえ。

啓介 「お前ら、こんな本作れるか?」と(笑)。

岩部 もちろん営業的なセンスは重要で、売ることの努力はする。ウチの場合も、なんとか採算がとれる作り方は必ずしてらるんです。ただ大手の出版社は企

画が「数字」の問題から始まるでしょう。その違いは確かにあるでしょうね。でも立井さん、えてびあんだって十七年でしょう? 本当によく続けてるなという感じしてらるんです。

啓介 いや、僕らの場合は立川という括り、立川人に向けて作ってるというワケがありますから、岩部さんのような苦勞は全くしてないですよ。そう云えば、そもそも僕が岩部さんを知ったのは、亡くなった砂川昌平さんからの紹介だったんです。「一人で出版をやっている面白い奴がいるから、一度会って見ろ」って。

岩部 ええ、ええ。砂川さんには本当にいろいろお世話になったんです。最初はウチの在庫を置く倉庫を建てるのに、土地をお借りできないかと相談しに行ったら、すね。すると「空いてる土地はねえぞ」って(笑)。

啓介 (笑)。

岩部 立井さんもご存じのように、砂川さんという方はあらゆる分野に造詣が深い。私が特に驚いたのは、お宅にある彫刻なんです。今でこそ繁栄衰章をもちょうくらしい彫刻家の無名時代の作品がゴロ

ゴロ置いてある。美術史的に見ても貴重な作品がたくさんあるんですよ。かつて彫刻家というのは画家以上に食えない職業でしたから、砂川さんのおかげで救われた美術家がどれだけのいたことか。

啓介 たとえ無名であっても意気に感じればとことん応援する、そういう方でしたよね。きっと岩部さんに対しても。

岩部 ええ、私も一人で出版屋を始めるというところで「お前、がんばれ」と、いつも叱咤激励されてました。新刊が出るたびに必ず買ってください。厳しいことも云われましたが、今振り返ると、砂川さんからは出版の心意気を教わったような気がします。

啓介 ええ、心意気。わかります。

岩部 バブルの頃、日本の企業が世界のあらゆる名画を大金で買い占めるなんてことが続いたでしょう? その値段が今、ほとんど下落している。要するに、日本には美術の本当の価値を知る人が少ないんですよ。そのおかげで現在、若手や末端の美術家が大変な苦勞している。そういうことは、これからもずっと考えていきたいですね。



最後にこれを訊こうと思ってたんですが、岩部さん、いい本を作るコツってありますか。

岩部 コツ? それは、逆に私が訊きたいですよ(笑)。

■歴史に埋もれたロマネスク建築の美しき、その原点を写真紀行で辿った最新刊「英国ロマネスク建築巡礼」。形文社としては38点目の刊行物となる。

スペイン料理 TAPAS	錦町 2-2-29 529-0733
振興信用組合 立川支店	錦町 2-2-32 524-1471
三田花店本店	錦町 2-5-23 524-4187
セガミ薬局	錦町 2-7-8 525-9212
アミューたちかわ	錦町 3-3-20 526-1311
そば処 高尾亭	錦町 5-5-31 522-2710
レストランラ・ボボラリータ	錦町 6-9-25 527-3880
林 歯 科	羽衣町 2-7-10 522-5657
中島豆腐店	羽衣町 2-12-34 522-5732
珈琲屋らうむ	羽衣町 2-27-9 526-3643
和風レストラン 鳶屋	羽衣町 2-27-14 526-3698
フレッシュフルーツ立川商店	羽衣町 2-30-6 522-3565
本・事務用品 泰明堂	羽衣町 2-31-1 522-3353
文具の ないとう	羽衣町 2-33-1 522-3677
赤松タバコ店	羽衣町 2-42 524-7852
カフェべる・こむーね	紫陽町 2-2-7 529-7800
味乃寿司 由	紫陽町 2-2-8 522-3733
すかの歯科	紫陽町 2-2-16-2F 540-2675
関田酒店	紫陽町 2-2-18 524-2960
ビストロすぎ浦	紫陽町 2-2-23 525-9929

えてびあんの輪

人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えてびあん!  
リストのお店にはいつでも、えてびあん!

今月は錦町・羽衣町・紫陽町のお店です。

ステーキ&飲屋 クワトロ	紫陽町 2-3-3 528-2983
casual restaurant ラ・パンパ	紫陽町 2-3-3 524-5800
コミュニティストア はなむら	紫陽町 2-3-9 522-2491
不動産 ユウ都市企画	紫陽町 2-3-13 528-2566
不動産 コマツホーム	紫陽町 2-4-6 525-5811
喫茶 キャリー	紫陽町 2-4-7 528-2630
かみゆい ぬわ	紫陽町 2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	紫陽町 2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	紫陽町 2-4-8 522-2894
ジョイフルプラザ アネックス	紫陽町 2-4-14-1F 521-1226
ファッションハウス ホマレヤ	紫陽町 2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパンオーロール 立川店	紫陽町 2-4-15 527-9473
日向地鶏 鳥 幸	紫陽町 2-4-18 528-0556
純中国料理 北京大飯店	紫陽町 2-4-19 522-6393
和食の店 ななや	紫陽町 2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局	紫陽町 2-5-3 522-3913
特選銘茶・海苔 菊川園	紫陽町 2-5-6 526-2035
cafe COLORADO	紫陽町 2-5-8 526-2265
西欧厨房 グランディール	紫陽町 2-5-8-2F 522-0729
マエダ文具店	紫陽町 2-6-2 525-6584



# 「日本一」が疾走す

かなやあかり  
小学生女子100m 金谷彩佳里さん(富士見町)

## 2年連続全国大会で活躍

小学5年生で陸上100m走日本一の栄冠に輝いた少女がわが立川にいる。  
フジミ陸上クラブ(代表・萱信一さん)に所属する  
金谷彩佳里さん(立川第四小6年)だ。

金谷さんは昨年の全国小学生陸上競技交流大会において  
13秒85のタイムで優勝。

東京都代表として同大会女子100m初の金メダルを得た。

6年生となった今年、

金谷さんは再び東京都代表のユニフォームを着て国立競技場を走った。

8月26日に行われた第16回同大会、結果は13秒55で4位入賞だった。

惜しくも、順位では2年連続日本一は果たせなかったが、

全国の強豪が揃ったトラックで、小柄ながらだっぴいに気迫をみなぎらせた疾走は、  
まぎれもなく「日本一」だった。



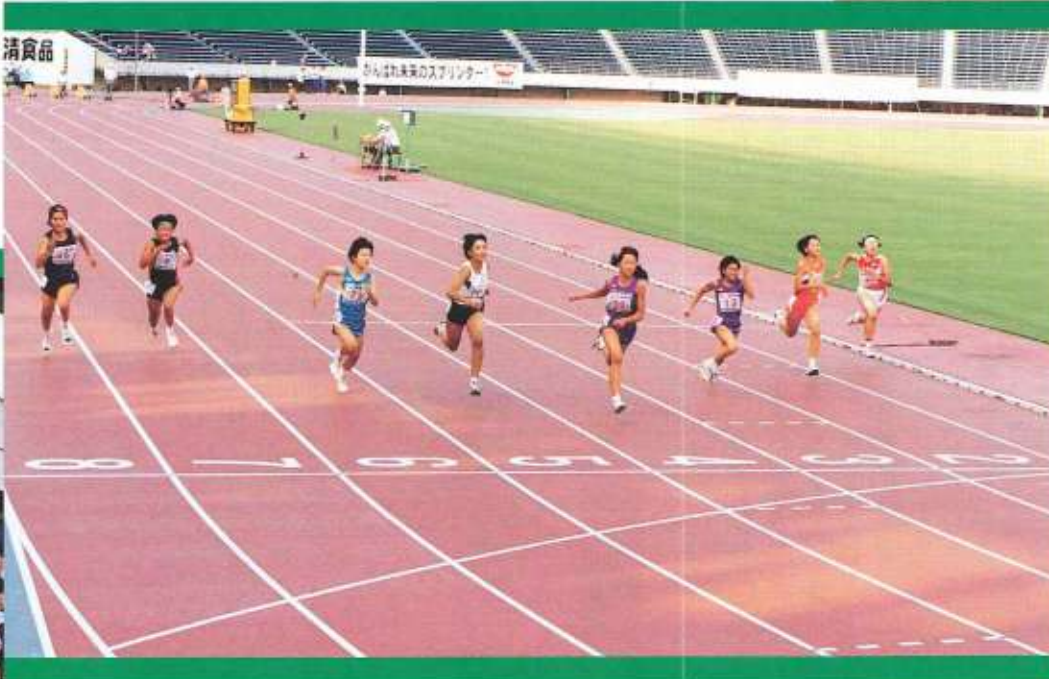
金谷さんが陸上競技を始めたのは4年生のとき。リレーの選手  
がたりないからと友だちに誘われたのがきっかけだったが、天  
性のバネを生かした力強い走り、1年後には全国のトップ・  
スプリンターに躍り出た。

今年は目標にされる立場となり、早くから注目が集まっただけ  
にプレッシャーはあったはず。6月の西東京陸上競技大会で13  
秒07の自己ベストを記録、7月の東京都選考会も危なげなく優  
勝したが、全国大会2週間前には体調を崩すアクシデントにも  
見舞われた。

だが、本番の競技ではそうした重圧や不安を吹っ切ったように、  
予選、準決勝、決勝と力を出し切って国立競技場のトラックを  
駆け抜けた。

競技を離れば、素顔は友だちとおしゃべりをしたり遊ぶのが  
楽しいふつうの女の子。目標に向かってひた走ったこの夏の経  
験は、金谷さんにとって、きっと大切な宝物になるはずだ。  
陸上選手としても、これからは楽しみながら成長期なのだから。

フジミ陸上クラブは富士見町の小学生を中心に約40人が練習する地域のクラブチーム。  
大会ではコーチも父兄もチームメイトも、選手と一体になって声援を送った。(7月9日駒沢陸上競技場)



全国大会6年女子100m決勝。4位入賞した金谷さんの走り。(8月26日国立競技場)



東京都選考会ではフジミ陸上クラブから、優勝の金谷さんのほか、女子リレー(佐藤香代子さん、笠見春菜さん、田中絵梨香さん、  
坂本麻美さん)と小6男子100m・鈴木一宇君がそれぞれ2位、男子リレーも5位に入賞した。(7月9日駒沢陸上競技場)



中国・北京市出身。昭和15年来日、養蚕の勉強に励んでいたが、やがて中国料理の道へ。はじめに新宿に店を持って以来、来年3月で丸55年になるという。立川に来たのが昭和25年。築碁町に店をもつが錦町に移転、すでに16年を数える。ご主人を平成3年に亡くし寂しい日々を送るが、自ら「仕事は彼氏」と励ましてきた。立川に開店した時の献立表を今でも大切に保存しており、当時の「中華ソバ」が50円とある。わが立川で最長老の料理人ではなからうか。「いつも30歳」と気が若い。(於・華盛楼/撮影・細江英公)

# 東風

秋も大分深まってきた。肌寒い日もある程で、ひと恋しい季節。「降はなにをするひとぞ」の心境が身にしみる頃合いでもある◆「えくてびあんの眼」で取材させていただいた金谷彩佳里ちゃんは、昨年、100メートル競技で「日本一」になった俊足の少女。第15回全国小学生陸上競技交流大会に東京都代表として出場の快挙であった。立川市地域文化振興財団の「コミュニティー奨励賞」をも受賞している◆今月の対談は「一人出版」を永年続けておられる岩部定男さんだが、美術本を専門にしており、わがえくてびあんにもしばしばご恵存いただく。いつも大部な、そして立派な装幀で専門の方々からは珍重な書籍として称賛されていることであろう。こんなに薄い「月刊えくてびあん」でも多くの人間の手を経ているのに、一人出版のご苦労は並大抵ではないだろうと察する◆「仕事が一番好き」と表紙の人・寺内ハルさんはおっしゃる。失礼ながら、お歳はおいくつですか、と訊いたことがあるが平然として「30歳。それ以上は歳をとらないことになっている」と。近頃、ジャーナリズムを騒がせている「介護」の問題など、どこ吹く風で毎日中華鍋を振っている◆秋の 立ち振る舞いや えくてびあん

【第三次えくてびあん同人】  
編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/  
芳賀敏博/山田五郎  
デザイン 池田隆男/AMNET DF  
写真 井上真治/五来孝平/中村伸

えくてびあん 11月号  
第18巻 通巻196号  
平成12年11月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0085  
編集人 芳賀敏博  
発行人 立井啓介  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## Topics トピックス

### 斉藤直子さん(錦町)に 日本ファンタジーノベル 優秀賞



「日本ファンタジーノベル大賞」(主催:読売新聞社、清水建設/後援:新潮社)は今年で12回を数えるが、今まで多くの作家を生み出してきた文学賞である。

その優秀賞に立川市錦町の斉藤直子さんが見事な受賞。今年は大賞受賞作はなく、斉藤さんの作品「仮想の騎士」が400作品を超える応募のなかのトップに立った。

作品はフランス革命を目前にひかえたフランスを舞台にして、美男の剣士やカサノヴァ、錬金術師が忙しく動き回り、イタリア系の登場人物に「関西弁」を使わせるなど、随所に新鮮味を表しているもの。

審査委員には井上ひさし氏、椎名誠氏ら著名作家があつたが、それぞれに賞賛の声があがり、「おそろべ歴史通」としての評価も高かった。

9月27日、「クラブ関東」(東京・麹町)で行われた授賞式では、井上ひさし氏が選評に立ち、「今年は大賞がなかったが、21世紀に

期待したい」と述べた。

斉藤さんは1966年生まれ、立教大学文学部心理学科を卒業。卒業論文のテーマが「幼児における空想的物語の産出能力」というから、もともとファンタジーを書く素質に恵まれていたのかも知れない。

これから第一線の作家として活躍してゆくことは間違いないところだが、今年12月には新潮社からの単行本化が決定している。



授賞式の様子



### 真味百撰 43 パワー軒

●幸町2-35-3 リバービレッジ1F  
●535-1665 ●11:30~22:00 ●月曜定休  
●カウンター13席 ●Pなし

ごまかしのない  
ラーメン専門店を持ちたかった  
複雑に絡み合う厳選素材の旨み



とんこつバラチャーシュー(写真)  
1,000円。支那そば 600円(並)~  
とんこつラーメン 650円(並)~  
とんこつみそラーメン 700円(並)~  
塩ラーメン 650円(並)~  
パワー丼 400円(小)~



「美味しいラーメンを作りたい」。高松町生まれの中野雅之さんは、日本蕎麦屋に勤める傍ら、独学で研究を始め、平成2年、幸町に待望のラーメン店を構えた。素材へのこだわりは他店に負けない。フルール・ド・セル(塩の花…海水が蒸発する際、最初に表面に浮き上がった塩でまろやかな味わいが特徴)を用いたり、短冊状の良質のメンマを手で裂くといった手間をかける。豚のゲンコツは、前処理の後、13時間かけてじっくりと煮込み、骨髄から旨みを抽出、ゼラチン質のとろみとコクを持たせている。とんこつラーメンは、すこぶる濃厚なスープが特徴。「ハマルカハジカ」と云われるその味は、好き嫌いははっきりと分かれるそう。ただ、7割が常連客ということから、この味こそが支持されていることが判る。バラ肉と肩ロース肉を使ったチャーシューは、脂ののって、とろりと柔らかい。「毎日、同じ味をキープするのが難しい。特に、支那そばは繊細だけど逆に面白い」。常にお客の声に耳を傾け、日々、研鑽を怠らない。この姿勢が人気の秘密なのだろう。パワー軒の名は、中野さんがパワーリフティングのジムに通っていたことに由来する。

## ごろさんの独断毒語

# セラビ会

先月号の続きです。 嗚嗚の決意でパリに残ることになりましたが知己友人は一人もいない、懐は寂しい。そんな処にいられるはずがないじゃないか、と客観的には思うのですが、当人は違う。 なんとかして、この世界にしがみつこうとしたが、パリという都市は観光客には英語で対応したり、親切を表現するのですが「生活者」にはとても冷ややかなのです。 二ヶ月で音をあげてしまい、どうしようかと思っていた矢先、耳ざとい私は北欧に行けば働き口もあれば、英語も通じると聞いて、一路コペンハーゲンに向かったのです。その時に私は初めて「ピッチハイク」という世界を知ったのです。片手の親指をあげて、便乗させてくれという合図を送るのです。 ようやくコペンハーゲンについても、知り合いがいるわけでもないし、ホテルに泊まるほどの懐の余裕もないのでした。どこをどう尋ねたのか、今は記憶にないのですが、日本というところの「公民館」のような所に外国人のための簡易宿泊所があると訊いて、飛び込んでいきました。



藤三郎安徳 III

そうしたら、日本人がキッチンで四人、美味しそうなスバゲテイーを食べているところでした。私は、——おれにも食べさせてもらえないか? と臆面もなく申し入れたのです。彼らは私を

私は何をしていたかと云えば、菊の剪定、チユーリップの種選び、レストランの皿洗いや生活のタシになるものならば何でもいたしました。仲間の中には材木運びをしたり、ビール会社の広告塔をつくらしたりしているのがおりましたが、夕食の時には和気藹々と語り合ったものです。 このグループはいつのまにか「セラビ会」と名付けられておりました。名付け親は私なのですが、私が知っているわずかなフランス語に「セラビ」というのがあります。日本語に直訳すれば「それが人生さ、仕方がないじゃないか」という程の意味合いで、フランス人が好んで使うフレーズです。 自分たちも好んで外地にいるのだから、このくらいの苦勞は「セラビ」として受け取ろうという気持ちです。私は一生懸命働き、ノルウェーにスキーに行ったり、ヨーロッパ大陸の最北端であるノールキャップにピッチハイクで旅したり、いろいろな経験をさせてもらいました。 でも、いつも胸にうずいていたのは、大都パリへいつか帰りたいというゆめでした。(やまだこう・詩人)

連載 四字熟語 (35)

### 梨園子弟

役者、俳優のたとえ。 中国、唐の玄宗皇帝が、長安の宮中にある梨の木の下で、三百人の青年子弟や官女を集めて音楽や演技を教えさせた所から、演劇界、俳優の社会、劇場を指すようになった。日本では、特に歌舞伎俳優の社会を梨園と呼ぶ。

「常楽我浄」(じょうらくがじやう) 放送時間  
スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch  
土 曜 午前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分  
再放送/火曜 午前9時~9時15分  
午後7時45分~8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。  
立川に育てられて六十四年  
真如苑  
電話 042-527-0111

さくらは、  
新しいカタチの銀行へ。

### さくら銀行

立川支店  
〒190-8690 立川市曙町 2-6-11  
Tel 042-522-2151

### デジタルえほん

メモリーブックにどうぞ...

ミッキーやキティちゃんと一緒に...!!  
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。

PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING  
火度社 042-527-1911  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
FAX. 527-1949  
E-mail JD00215@nifty.ne.jp



# 洋画家・武正博司

(柴崎町)



微風 20号



学校に行くことも師に就くこともなく、絵を覚えたのは全くの独学、いわば無手勝流です。持ち前の好奇心と自分の眼だけを頼りに描き続けてきました。何の後ろ盾もない身ですが、細事に執われず、描きたいものを自由に描ける喜びも無手勝流を通じたからこそ。今年六十八歳、まだまだ好奇心は衰えません。

モチーフとなる人形の表情においても、風景においても、全体のトーンとして「寂し気な」感じが多いと良く評されます。形あるものはすべて消えゆくという認識がそうさせるのかも知れません。

しかしただ寂寞とした心象ではなく、物の終わりを受け入れた時に現出する希望、その姿をとらえることができたらと思っています。自分なりの死生観を追求していくこと。これが今の自身のテーマです。

武正博司

